

温泉分析表

1 温泉分析申請者

住所 和歌山県新宮市浮島1番25号
氏名 株式会社キナン 代表取締役 角口 孝幸

3 湧出地における調査及び試験成績

(1) 調査及び試験者 株式会社エオネックス 近江厚人
(2) 調査及び試験年月日 平成29年11月15日
(3) 泉温 31.7°C (調査時における気温 11.8°C)
(4) 湧出量 127L/min (動力揚湯)
(5) 知覚的試験 無色・澄明・強塩味、苦味・無臭
(6) pH値 7.1 (ガラス電極法)
(7) 電気伝導率 2,500 mS/m (25°C)
(8) ラドン(Rn)含有量 $- \times 10^{-10}$ Ci/kg (-M.E/kg)

2 源泉名及び湧出地

源泉名 三田温泉1号井戸
湧出地 兵庫県三田市富士が丘5丁目54

4 試験室における試験成績

(1) 試験者 株式会社エオネックス 宮本 直人
(2) 分析終了年月日 平成29年12月6日
(3) 知覚的試験 弱黄色・澄明・強塩味、苦味・無臭 (試料採水27時間後)
(4) 密度 1.010 (20°C/4°C) g/cm³
(5) pH値 7.05 (ガラス電極法)
(6) 蒸発残留物 16.35 g/kg (180°C)

5 試料1kg中に含有する成分、分量及び組成

(1) 陽イオン

成分名	ミリグラム (mg)	ミリバル (mval)	ミリバル% (mval%)
リチウムイオン	18.4	2.64	0.97
ナトリウムイオン	3480	151.4	55.58
カリウムイオン	15.8	0.40	0.15
アンモニウムイオン	0.2	0.01	0.00
マグネシウムイオン	23.2	1.91	0.70
カルシウムイオン	2301	114.8	42.17
ストロンチウムイオン	44.8	1.02	0.37
バリウムイオン	0.9	0.01	0.00
アルミニウムイオン	<0.1	-	-
マンガンイオン	1.6	0.06	0.02
鉄(II)イオン	1.8	0.06	0.02
鉄(III)イオン	<0.1	-	-
陽イオン計	5888	272.3	100

(2) 陰イオン

成分名	ミリグラム (mg)	ミリバル (mval)	ミリバル% (mval%)
ふっ化物イオン	1.1	0.06	0.02
塩化物イオン	9364	264.1	99.60
臭化物イオン	21.2	0.27	0.10
よう化物イオン	6.7	0.05	0.02
硫化水素イオン	<0.1	-	-
硫黄イオン	<0.1	-	-
チオ硫酸イオン	<0.1	-	-
硫酸イオン	0.8	0.02	0.01
炭酸水素イオン	39.7	0.65	0.25
炭酸イオン	<0.1	-	-
陰イオン計	9434	265.2	100

(3) 非解離成分

成分名	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)
メタけい酸	26.4	0.34
メタほう酸	69.6	1.59
メタ亜ひ酸	<0.1	-
非解離成分計	96.0	1.93

溶存物質(ガス性のものを除く) 15.42 g/kg

(4) 溶存ガス成分

成分名	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)
遊離二酸化炭素	67.3	1.53
遊離硫化水素	<0.1	-
溶存ガス成分計	67.4	1.53

溶存成分総計 15.48 g/kg

(5) その他微量成分

成分名	ミリグラム (mg)
総水銀	0.0005 未満
総ひ素	0.01 未満
銅	0.01 未満
鉛	0.01 未満

6 泉質

ナトリウム・カルシウム - 塩化物温泉(高張性・中性・低温泉)

7 禁忌症、適応症

浴用の禁忌症

一般的禁忌症	(1) 病気の活動期(特に熱のあるとき) (2) 活動性の結核 (3) 進行した悪性腫瘍または高度の貧血など身体衰弱の著しい場合 (4) 少し動くと息苦しくなるような重い心臓または肺の病気 (5) むくみのあるような重い腎臓の病気 (6) 消化管出血 (7) 目に見える出血があるとき (8) 慢性の病気の急性増悪期
--------	---

浴用の適応症

一般的適応症	(1) 筋肉もしくは関節の慢性的な痛みまたはこわばり (関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期) (2) 運動麻痺における筋肉のこわばり (3) 冷え性 (4) 末梢循環障害 (5) 胃腸機能の低下(胃がもたれる、腸にガスがたまるなど) (6) 軽症高血圧 (7) 耐糖能異常(糖尿病) (8) 軽い高コレステロール血症 (9) 軽い喘息または肺気腫 (10) 痔の痛み (11) 自律神経不安定症 (12) ストレスによる諸症状(睡眠障害、うつ状態など) (13) 病後回復期 (14) 疲労回復 (15) 健康増進
泉質別適応症	(16) きりきず (17) 末梢循環障害 (18) 冷え性 (19) うつ状態 (20) 皮膚乾燥症

浴用上の注意

入浴前の注意

(ア) 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。
(イ) 過度の疲労時には身体を休めること。
(ウ) 運動後30分程度の間は身体を休めること。
(エ) 高齢者、子ども及び身体の不自由な人は、1人での入浴は避けることが望ましいこと。
(オ) 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度に慣らすとともに、身体を洗い流すこと。
(カ) 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にならないよう、あらかじめコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。

入浴方法

(ア) 入浴温度
高齢者、高血圧症もしくは心臓病の人または脳卒中を経験した人は、42°C以上の高温浴は避けること。
(イ) 入浴形態
心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴または部分浴が望ましいこと。
(ウ) 入浴回数
入浴開始後数日間は、1日当たり1~2回とし、慣れてきたら2~3回まで増やしてもよいこと。
(エ) 入浴時間
入浴温度により異なるが、1回当たり、初めは3~10分程度とし、慣れてきたら15~20分程度まで延長してもよいこと。

入浴中の注意

(ア) 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。
(イ) 浴槽から出るときは、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。
(ウ) めまいが生じ、または気分が不良となったときは、近くの人に助けを求めつつ、浴槽から頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横になって回復を待つこと。

入浴後の注意

(ア) 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び30分程度の安静を心がけること(ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質(例えば酸性泉や硫黄泉等)や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で洗い流したほうがよいこと)。
(イ) 脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度の水を補給すること。

湯あたり

温泉療養開始後おおむね3日~1週間前後に、気分不快、不眠、もしくは消化器症状等の湯あたり症状または皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、または回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。

その他

浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは入れないこと。